



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 11.2月号

せっかくですから・・・

お腹の風邪というものの流行の季節になりました。インフルエンザもそろそろ流行の兆しをみせ始めています。幸いなことに愛隣幼稚園では病欠の数はそう増えていません。むしろ少ないくらいです。ここ数日は病欠が1人とか2人とか・・・。この先も爆発的な流行にならないことを願っています。

この季節になると思い出すことがあります。私が新米母さんだった頃の事です。長女は19歳になりましたから、それは今から18年位前のことになります。ついこの間のことのように。夕方から具合が悪くなった娘。時間を追うごとに熱はドンドン上がっていきます。夫はまだ仕事から帰ってきません。呼吸が速くなり、体を触れば湯たんぽのように熱くなっています。もちろん近所のお医者さんに診てもらえるような時間はとっくに過ぎています。今思えば、自分の親に電話でもしてちょっと聞いてもらえばよかったのです。でも、その時の私はそれに気付きませんでした。ひとりで考えることで不安は増幅され、もう居ても立ってもいられません。夜間の救急診療を調べ、夫が帰ってくるや否や、車を走らせ海浜病院へ。今はどうなのか分かりませんが、そんな時間の病院は決して安心できる雰囲気ではありません。私もまたまた不安になりましたから小さな娘はなおさらだったでしょう。待った挙句の診察でお医者様の言うことには、「まあ風邪でしょうから・・・一応、解熱剤出しておきますね。様子見て明日、改めて掛け付けの小児科を受診して下さい。」それだけ?! くだびれ果てて真夜中に帰宅。こんなことなら、落ち着いてもう少し家で様子を見てあげればよかった。3人育てた今となっては、「ただちょっと高い熱が出ただけの事、家でゆっくり朝が来るまで様子を見れば熱も下がってしまうかもしれない。」という判断も容易なこと。でもそれが出来ない未熟な母さんでした。経験のないこと、知識のないこと、自信のないことに直面して右往左往。苦しそうな娘の様子にどうにかなってしまうのでは、とネガティブな想像ばかり。それに冬の寒さと日暮れの早さが拍車をかけました。懲りない私は、その後も大した風邪でもないのに医者連れて行っては、いわゆる余計なものを貰って帰り、もっとひどいめに会うこともしばしば。そんなことの繰り返し。子どもを楽にしてあげたいという思いが半分、自分が安心したい思いが半分というのが本音だったかもしれません。

今はどうでしょう。吐いたり下したり、熱をだしたりすることは体の正常な防衛反応と知りました。子どもは病気に罹りながら抵抗力をつけていく。昔は恐れられていた病気も、対応を誤らなければ恐れることはない。小さな擦り傷はむやみに消毒せず、水でよく洗い流し乾かさずに治す。経験も重ねましたが、知識も増えたかなあと思っています。そしてさほどの事では驚かなくなりました。子どもは大きくなり時既に遅しの感はありますが、看護助手の見習いぐらいにはなれたと勝手に思っています。

親になるっているんな面でちょっとしたプロになることかなあ、と思います。特に自分が得意とする分野で。それはお菓子作りだったり、虫探しだったり、洗濯だったり、そして病気やけがのことだったり。子どもと生活する中で私たちは、否応なくいろいろな場面に直面させられます。ん～そう考えるのではなく、経験出来なかった様々なことをするチャンスももらいます。せっかくですから、おもしろがってそこから新たな自分を発見しましょう。意外に上手だったり、興味があったりするものに出会えます。そしてどうせならちょっとしたプロになってしまいましょう。それは子どもと自分の生活はもちろん、あなたの周囲の人々の生活も豊かにすることになるかもしれません。